



# ロシアNIS経済速報

社団法人 ロシアNIS貿易会

2011年（平成23年）5月25日号 No. 1529

## 目次

■ <b>ベラルーシの民営化・外資政策の急転換</b> .....	服部 倫卓 1
■ <b>東日本大震災に関するロシアの報道振り</b> .....	13
■ <b>トピックス</b> .....	15
経済産業省がロシア極東で日本製品の安全性をPR／15	
住商がロシアに鉱山機械販売・サービス拠点／16	
コマツのケメロヴォ州拠点／16	
KDDI、ロシア大手と共同で国際回線増強／16	
ロシア中小企業団体が北九州市に事務所／16	
■ <b>エトセトラ</b> .....	17
『調査月報』2011年6月号のご案内／17	

## ベラルーシの民営化・外資政策の急転換

ロシアNIS経済研究所 次長  
服部 倫卓

### はじめに

周知のように、ベラルーシのルカシェンコ政権は国家主導の経済体制を構築し、市場経済化にはどちらかと言うと後ろ向きな姿勢をとってきた。しかし、ルカシェンコ大統領は2010年12月の選挙で再選を果たすと、その直後に経済自由化の方針を発表している。その前後から、民営化をめぐる動きがにわかに慌ただしくなっている。そして、国内資本が非力な当国における当然の帰結として、同時に外資導入の話題も盛り上がっている。

ベラルーシが国営企業を身売りしたところで、その買収に名乗りを上げる日本企業が出てくるとは考えにくい。しかし、ベラルーシ大企業の経営主体が代われば、たとえば日本からのプラント輸出といったビジネスチャンスが拡大するかもしれない。また、ロシアの大資本がベラルーシ企業を傘下に収めるシナリオは大いに考えられるので、ロシア経済・企業をウォッチするうえでも、ベラルーシの民営化問題を視野に入れておいて損はないであろう。そこで本稿では、ベラルーシの民営化政策の概要と経緯を整理するとともに、話題になっているいくつかの事例を紹介してみたい。